

漁況予報 い わ し

第190号

【2015年7～8月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、5月は700kgと前年(5トン)及び平年^{※1}(60トン)を大きく下回りました。続く6月も930kg(速報値)で、前年(9トン)及び平年(61トン)を大きく下回り、不漁傾向の2ヶ月となりました。

まき網も同様で、東京湾、相模湾ともに水揚げはありませんでした。

犬吠埼沖～三陸沖海域では、まき網で1歳魚主体に大羽マイワシ混じりでの漁獲がありましたが、本県沿岸海域への来遊は非常に少ないものとなりました。

魚体は、被鱗体長^{※2}(以下同)13～14cm主体でしたが、定置網では6月に入り7～8cmのヒラゴ(画像参照)がカタクチイワシに混じり入網するようになりました。これは2015年生まれの当歳魚で、春のシラス漁で1割ほど混獲されたマシラス(マイワシ仔魚)が成長したものと思われ、今後さらなる漁獲が期待されます。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、5月は275トンで、前年(580トン)及び平年(620トン)を大きく下回りました。続く6月も334トン(速報値)で、前年(422トン)及び平年(484トン)を下回りました。

魚体は、9～10cmの小型成魚主体で、6月中旬には7cmの未成魚も混じりました。

鴨居地区及び佐島地区(1ヶ統)のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲し、佐島地区(1ヶ統)では2ヶ月計190トンの水揚げがありました。

【シラス】

4月に入っても不安定な漁模様となり、相模川以西で平年の6割、以東で同1割に留まった相模湾のシラス漁ですが、5月に入っても上旬は不安定な漁場形成となりました。一部の船は沖曳き操業で活路を見出し、中旬に1週間ほどまとまった漁となり200～600kg/統/日の日も出たこともあり、5月の漁獲量(標本船データより推定)は前年を上回り平年並となりました(前年比1.3倍、平年比0.9倍)。

6月に入ると中旬以降、小～中シラス主体に獲れ続け、例年端境期となるこの時期としては豊漁となりました。(前年比2.5倍、平年比2.5倍)

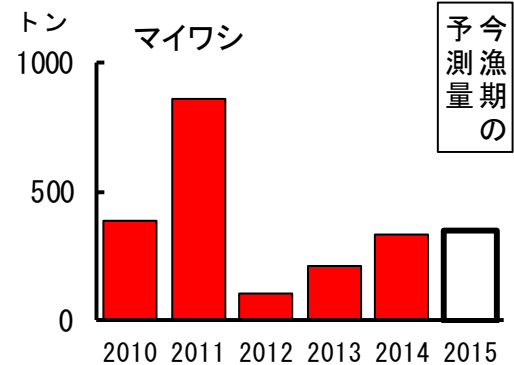
= 予 報 =

過去5年の7・8月漁期の漁獲量と
今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2015年生まれの小羽マイワシ（10～13cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年並の約344トンと予測されます。

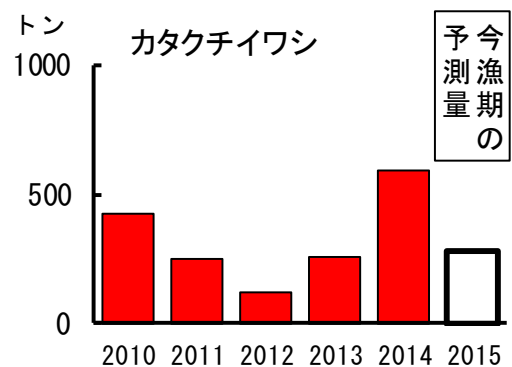


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、前半は小型成魚（9～10cm）、後半は未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年を下回る約280トンと予測されます。

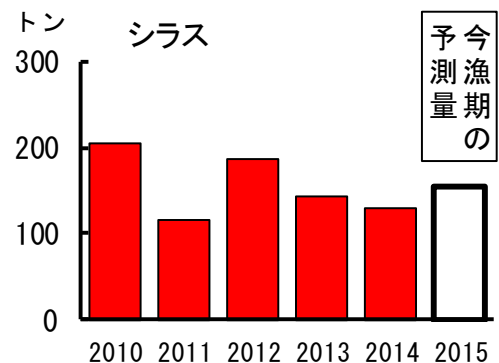


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

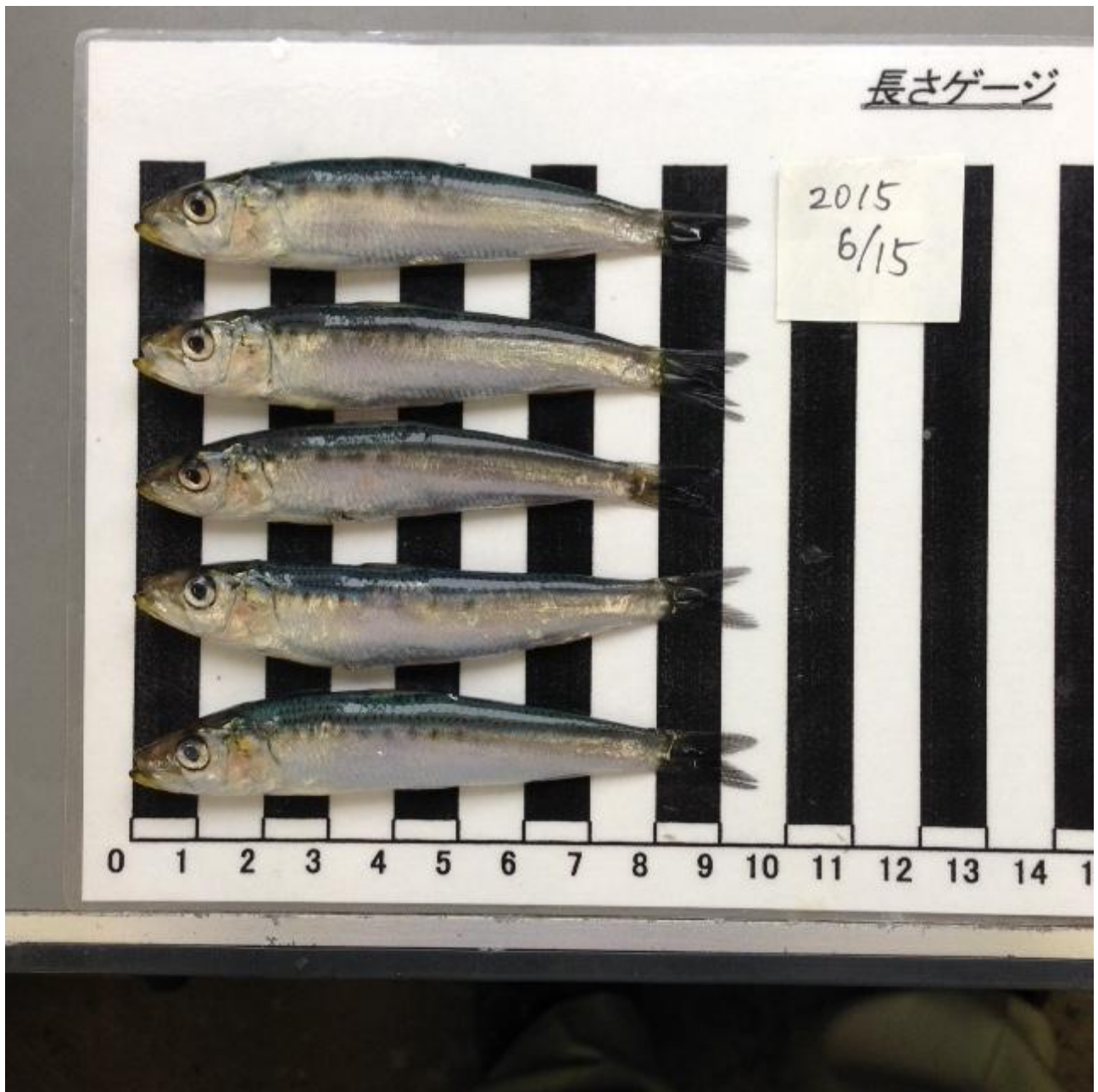
【シラス】

今漁期は、5月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、5～6月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年並の約154トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2313



2015年6月15日に相模湾の定置網に入網したヒラゴ